

# 令和4年度 第2回学校運営協議会抄録

日時: 令和4年12月8日(木)18:00～ 場所: 本校 会議室

出席者: 阿部(市適応指導教室)、大岩(株式会社トウソーイング)、熊谷(岡山大学教授)、白髭(玉野備南高校長)、角田(後援会会長)、鶴田(社会福祉法人四ツ葉会)、藤原(市商工観光課)、藤原(保護者代表)、東(玉野SDGsみらいづくりセンター)、川崎(市教委学校教育課長補佐)、事務局: 教頭、事務長、教務課長、普通科長

## 1. 開会 校長挨拶

第1回の会合では、岡大大学院の熊谷教授から校長が替わっても、学校が地域に有為な人材が持続的に輩出できるように学校運営協議会があることを伺った。その地域の方に学校の日常を理解していただくとう学校ブログを現在145回更新しているので御覧いただきたい。一方で本校の課題「回復力(レジリエンス)の育成」も判ってきた。このためにどのような教育課程の編成が有効か、修業年限の変更も含めて研究してゆきたいと考えている。



(熊谷委員は研究室からリモートで出席)

## 2. 学校説明

### (1) 学校の概要について(教務課長)

本校入学者数の推移や実態、授業のユニバーサルデザインの取組や通級指導、学び直しや就労支援についての説明がなされた。充実した授業のために短焦点プロジェクタを設置したことや、全国大会に出場した部活動の活躍、生徒の主体性を促す学校行事等の様子が説明された。

また、進路実現のために、従来実施の企業見学に加えて、インターンシップを2年生に前倒したことや離職を防ぐために就職内定先との連絡会が開催予定であることなど新しい取組が紹介された。

### (2) 学校経営の具体的計画の中間評価について(教頭)

日常の授業については、従前のICTの活用に加えて、国語や英語、理科や数学において、タブレットを使った場面が増えたことを報告する。

また、通級指導については、県教委特別支援教育課の要請を受け、本校コーディネーターがZoomによる研修会の講師を務めたり、地域の拠点校として巡回指導をしたりするなど先進的な立場にあることを報告した。

## ○意見交換(一部を抜粋)

【委員A】 授業でタブレットを使っている様子だが、どれくらいの頻度で使用しているのか。

←授業の活動の特性もあるので毎回というわけではないが、使用頻度は昨年度に比べて格段に増した。生徒は使い方に早く馴れていて、タブレットを使って調べたり、画像を提示して発表したりもする。Chrom ebookのJamboardで英単語対決をすることもできる。

【委員B】 様々な特性やいろいろな背景を抱えた生徒の指導に、先生方はよく取り組んでいると思う。公衆電話があれば、そこで悩みのある生徒が公的機関に気兼ねなく相談できると聞いたが、備南にはあるか。

←公衆電話は、本校にも生涯学習センター内にもない。生徒が悩みを相談しやすいように、年度初めには1年生全員とSCが顔合わせの教育相談をしている。また、相談室を設けて生徒の相談に対応できるようにしている。

【委員C】 インターンシップは年に何回行っているのか。アルバイトをしていない生徒にまずインターンシップを体験させるのがよいと思う。

←担任が生徒の就労意識を刺激しながら、インターンシップを勧めている。アルバイトが長続きしていない生徒にはインターンシップを通じて自己理解を図らせている。

【委員D】 高校3年間だけではなく、生徒の卒業後の様子も確認しているところに驚いた。ターニングポイントは卒業後にある場合もある。アフターフォローをしようと考えているのは良いと思う。

インターンシップは、社会勉強のためか、将来の就労を見据えてのことか。  
←新卒者の離職が社会的な問題として報道されている。学校でも卒業生その後をつかもうとしている。社会人として良いスタートが切れるように、教育課程の見直しをしたいと考えている。

インターンシップは個々の生徒にとって意味合いは異なるが、社会人として必要とされる資質や能力を知る上では非常に有益であると考え。

【委員E】 学校は生徒一人ひとり大事にしてくださっている。支援や配慮を必要としている子ども対応のどうしても困った場合には就労支援コーディネーターに相談してみることもよいと思う。ゆっくり待つ対応が求められる。ここまで対応している高校はないと思う。備南高校の授業を見てみたい。

←県教育庁特別支援教育課等の外部機関と連携している。本年度は就労支援施設から講師を招いて、生徒や保護者と身近に接する担任の理解に資する教員研修を行っている。授業参観は随時できる。

- 【委員F】 自分が在籍していたころよりも、学校を取り巻く環境は複雑で難しくなっている。玉野備南高校は自分のやりたいことができ、自己実現、成功体験を積みやすい学校だったと思う。
- 【委員G】 これまで小学生や中学生の時に見守ってきた生徒が元気で玉野備南高校に来ていることに感謝する。体育祭の時に、その生徒が元気で挨拶をしてくれたことで、その成長が感じられ、感動した。
- 【委員H】 会社に勤めたとしても辞めてしまうというところが課題で、どんな仕事でも自分が思っていることとギャップ、キャリアミストはあるものだ。このことで高校生に一生にわたってドロップアウトさせないためにも、インターンシップを多く経験させ、そのギャップを低減させていくことが大切である。
- 【委員I】 昔の備南高校は機械科もあり、夜間部もあり、4年間働きながら通う大人の生徒もいて、その中で団体行動をしていたので、自立心が身に付いたように思う。通ってくる生徒の気質も変わってきた。  
先日、中学生の自立を促す活動「だっぴ」で中学生と話をする機会があったが、はじめて大人と話すような子どもは自分から話せなかった。このようなこともあるから、今の生徒に自分をアピールする場を設けてやれば、就職する時に自分をしっかりアピールすることができるようになるのではないかと。

### 3. 協議

#### (1) 3・4修制について説明

現在は3修制と4修制を生徒が選択できる教育課程である。3年の卒業を目指す、場合によっては4年間をかけて卒業することもできるというのがそれである。

卒業後1年から3年の間での離職者が増加している社会的な問題があり、本校も過去3年間の統計を見れば、その傾向があった。このことを受け、生徒の自立に向けた「夢育」を行っているところではあるが、夢破れた生徒が再び夢に向かって進んで行けるような「回復力(レジリエンス)」を育ておく必要があるのではないかと考えるが生じている。そのためには、学び直しやキャリア教育を行うために必要な時間の確保、つまりは現行の3修制から4修制への教育課程の変更について研究を試みてみることを提案したい。メリット、デメリット、留意すべき事等、御意見をいただきたい。



#### ○協議の一部を抜粋

- 【委員A】 4修制での卒業なら、退職や退学者数は減るのか。  
←昼からの登校となるので出席率が上がる。就職に関しては、就労体験も増えるので、離職者も減ると思われる。
- 【委員B】 4修制は生徒への個別対応に時間がかかけられるので良いが、費用が1年余分にかかる。その点はどのように考えるのか。  
←確かにその分、諸費用はかかる。しかし、一方で1日の授業時間数が少なくなった分、働く時間が長くなるので費用を賄うことも可能になる。
- 【委員D】 4修制になると、3年での卒業はできないのか。4年生で卒業することを基本として、飛び級みたいに3年でも卒業できるようにすれば、生徒の学習に対するモチベーションもアップするのではないかと。  
←4修制の教育課程だと3年での卒業は難しくなるが、「飛び級」という発案は検討してみたい。現行では検定取得で増加単位が認められるという制度がある。
- 【委員I】 夜間部は4年間だったが、中には早く登校して2時間ほど余計に授業を受けたら、3年で卒業していた生徒もかつてはいたと思う。そのようなことが可能なかどうか、過去の経緯を調べてみてはどうか。
- 【委員E】 4年でしか卒業ができないとなると、入学者も減少するのではないかと。今、通っている生徒やその保護者にアンケート等をして意見を聞いてみてはどうか。
- 【委員H】 すぐに結論を出すのは難しい。4修制となると、生徒への支援が手厚くできるが、現在は玉野備南高校に通うと3年で卒業できるとして入学してきている。どこに焦点を当てるかが大切である。生徒、保護者へのニーズ調査が必要である。3年で卒業できることで、生徒のやりがいも出てくると思える。  
←生徒や保護者、地域のニーズ把握は大切である。4修制を基軸としながらも3年でも卒業できる教育課程の検討等、研究に資する有益な示唆をいただいた。実際に教育課程を変更すると、市教委との事前協議や入学生への事前告知等があるのですぐに結論は出ない。学校としては夢破れても再び夢に向かえるような「回復力」の育成を目指した研究の方向性を来年8月末を目途に提案してみたい。今後も御教示を賜りたい。

### 4. 事務連絡

学校運営協議会の第3回は2月末～3月上旬に開催予定、臥竜祭(文化の部)は12月15日に開催する。

### 5. 閉会 運営協議会会長挨拶

角田会長からは、熱心な協議への感謝と継続した学校への協力が述べられ、19:30終了した。